

「国際復興フォーラム 2020」について

2020年1月28日、兵庫県の神戸市において、内閣府や兵庫県、国際復興支援プラットフォーム（IRP）、アジア防災センター（ADRC）、国連防災機関（UNDRR）の主催による「国際復興支援フォーラム 2020～レジリエントなインフラで Build Back Better（BBB）を目指す～」が開催されました。

○開会

開会にあたり、ジャレッド・メルカダンテ IRP 運営委員会議長、村手内閣府大臣官房審議官、金澤兵庫県副知事が挨拶を行いました。

村手審議官は、我が国において、本年が強靱なインフラづくりを行う「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」の総仕上げにあたるとして、災害に屈しない強さとしなやかさを備えた国土の強靱化を進めている我が国の取組を紹介しつつ、我が国が経験した一連の災害から得られた貴重な教訓を国内外に発信し、世界の防災対策の充実につなげていきたいと述べました。

○特別講演 1

特別講演 1 では、室崎兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科長が「生活の復興とインフラの復興～阪神淡路大震災の教訓」と題した講演で、阪神淡路大震災が契機となった「創造的復興」の取組を紹介し、防災教育や助け合い文化のような「人間の復興」と住宅再建や産業の復興による「生活の復興」を組み合わせ、一人ひとりが希望を取り戻せるような復興を実現することが重要だと述べられました。

○特別講演 2

特別講演 2 では、カマル・キショーインド政府国家防災委員会理事が「**Making Infrastructure Disaster Resilient Opportunities and Challenges**」と題した講演で、インド政府がレジリエントなインフラに関して国連防災機関と連携して取り組む事例を紹介し、ガイドラインの作成やワークショップ・訓練の実施だけでなく、インフラの強靱化の成果をモニタリングしていくことが重要であると述べられました。

○パネルディスカッション

パネルディスカッションでは、「レジリエントなインフラを通して、より良い復興のために事前に計画を立てる」と「レジリエントなインフラの復旧とより良い

復興」の2つのセッションが行われ、特に日本からは、内閣官房国土強靱化室より「強くしなやかな社会」の実現に向けた取り組みについて、兵庫県より、津波防災インフラ整備計画について、説明を行いました。このほか、レジリエントなインフラを構築するための規格や規制の導入の重要性や、復興計画を策定するためのインフラ被害の推計方法などについて各パネリストが経験した災害対応の教訓を踏まえ、議論が行われました。

○総括及び閉会

結びに、内閣府の石垣企画官から、G7 や G20 の首脳らによる成果文書への記載を踏まえ、レジリエントなインフラの重要性は世界のリーダーによって徐々に認識されてきたが、レジリエントで持続可能な社会を構築するには、このレジリエントなインフラの概念を世界中の市民の間にさらに広める必要があると述べ、本フォーラムが、世界のレジリエントなインフラ、創造的復興、そして「より良い復興」への取り組みに貢献するものであることを宣言し閉会しました。

○国際復興フォーラム 2020

